かわらばん
河原版

調布の自然で遊ぶ
野川で遊ぶまちづくりの会
代表 尾辻 03-3326-8285
編集 四方田 0424-80-4640
第11号 1995年 5月発行

カニ山で

子どもの造形教室主宰 山本靖子

ふだん造形教室では、せまい中で工作の時など、のこぎりがぶつかり合いそうな状態でやっているのですが、今回の広い自然の中での制作は、ほんとうに心が解放されるような思いがしました。子供達の制作する姿も、できた作品も、いつもとはかなり違った、力強さとのびやかさが確かにあったと思います。それは、私が自分で教室の中で試作した作品と比べてみても一目瞭然でした。私は調布に実家があるものの、六年前までずっと他で暮らしていたので、実はカニ山は周りをあるいたことがあるだけで、あの広場は今回はじめて足を踏み入れたのです。こんなすてきな場所を今まで使わずにいたなんて、もったいないことをした、と思いました。これから春に、夏に、どんな自然が顔を出してくれるのだろう、と楽しみです。

子供達の作品は様々でした。ライオン、ロボット、弓矢、何でもないもの、クワガタ…。はじめから作りたいものがあって、それに適した枝をさがす子、たまたま拾った枝から何を作ろうと考える子、いろいろです。5才の男の子が、何本も足のあるもの（ムカデ？）を作りたくて、ずっと長い間のこぎりで枝を切っていました。彼にはのこぎりは初めてだったのでしょう。きっとすてきな思い出として残るに違いありません。

ふだんは忙しくて工作どころではない何人かのお父さんお母さんが、一生けん命作っているのも、ステキでした。

子供達が誰に強いられるでもなく、一生けん命になれることってすばらしいと思います。自然の持っている力が、心の奥の何かに語りかけてくるからなのでしょう。造形教室をやっていると、どんなきっかけを作れば子供達の心に触れて創作意欲を湧かせてくれるかと、いつも悩みますが、なかなか子供達がみんなそれぞれ違った感性を持っているから当然のことなのですが、自然の多様さは、恐らくどんな子供達にも例外なく、何かを感じさせてくれるだろうと思います。

どの子も、そしてどの大人も、あのカニ山の空間の中で自然との対話ができたこと、そして、そんなことができるということが、今の時代には、かけがえのない幸せな、大切にしなければいけないことだと感じます。

「また会おうね」と、あの日はじめて会った子に声をかけました。そんな気持ちにさせてくれた一日でした。

「枯れ枝造形と焼いも」に参加して

船越（ふなこし）一輝（かずき）（小３）

ぼくはかれえだぞうけいで、くわがたのとんでいるところを作りました。はっぱの羽の上にこうらをどのようにつければいいかと、考えていると、いろんな人がアドバイスをしてくれたのがうれしかったです。おかげでくわがたが、とてもじょうずにできました。くわがたを作り終わってから食べたやきいもは、家で食べるより、おいしく、元気がでました。お母さんも「いきたかったなぁ」と言ってました。

小宮直実（お母さん）

家族全員で参加させていただきました。ノコギリ、クギ、カナヅチなど普段使わないものを子供と一緒に使い、馬を作りましたが、足の長さや太さが合わず、一度では上手にできませんでしたが、親子共々楽しく過ごせました。枯れ枝で何を作るか構想するのに時間がかかったため、もう少し時間があれば良かったと思いました。また参加したいです。「ヤキイモ」おいしかった。

カット　岡本雅生くん

おかもとまさき
岡本雅生（小3）

まわりがきれいできもちよかったです。作ひんもうまくできました。木でつくるのもたのしかったし、やきいもも、おいしかったです。
楽しかったです。

おかもと
岡本まお（小1）

まわりの人がいっぱいだったのでおかあさんとおとうさんをさがすのがたいへんでした。木でつくるのがなにかわかりませんでした。でも木でつくるのもおもしろかったです。

いちもんじ　まゆみ
一文字眞弓（小1）

さいしょなにをつくっていいかよくわからなかったけれど、イタチの頭のような形をした木を見つけたので足をつければなにかになるかなとやってみました。木はおもたくてなかなかわたしの見つけた足では立ちません。おかあさんと手としっぽをつけたらへんなきょうりゅうができました。

一文字恵子（お母さん）

材料と道具その上ヤキイモまで準備して下さって、なかなか家族だけでは出来ない事に恵まれて楽しかったです。

あいかわらずのカニ山

武居みき子

はじめて野川で遊ぶ会の”枯れ枝造形と焼きイモの会”に参加しました。私は調布で生まれ育ってきましたので会場となったカニ山は昔よく訪れたなじみ深い場所ではありました。とはいうものの、中学校を卒業してからは一度も足を運んだこともなかったので、”カニ山”の存在は私の中で完全に消し去られたものになっていたのです。

何年ぶりかのカニ山はやはり私が遊んだカニ山とは少し変わっていましたが、おおむねは変わらず、高速道路の下をぬけると急にあたりが山の匂いに変わってくる感じはそのままでした。ここ何年か、調布の自然も様がわりして、毎日の通学路の景色も住宅地になったり、開発整備されすぎた味気ない公園になったりとだんだん変わっていきました。調布もつまらなくなってきたな、と週末は奥多摩や秋川、高尾の方などに遊びに行ったりしていたのですが、よく見てみると、わざわざ遠出しなくてもこの周りにもまだまだ自然が残されていることに気がつかされました。一番変わってしまったのは自分で、子供のころなら、つくしやタンポポ、どくだみなどなど、どこにあっていつ出てきたのか何の苦労もなく知っていましたが、今は毎日ただ家の前のバス停から学校まで眠りながらの往復で、そういった自然の呼吸のようなものはなにも聞こえなくなってしまっていたようです。だからといって、カニ山にいったことを境に、調布の自然に目覚めてどうこう…といったことは多分なく、これからも毎日眠りこみながら調布を出てゆくのだとは思いますが、すぐ近くにあいかわらずの同じ姿で、カニ山のような自然があると一時でも再確認できたことは私にとってうれいしい出来事でした。

生態学初志

～環境問題から関係問題へ～

（上村　佳孝）

４月から生物学科の学生になります。僕は生物学の中でも特に生態学という分野に興味を持っていますが、今回はトンボからはちょっと離れて、生物学（特に生態学）に対する初志のようなものを書いてみたいと思います。

生態学（エコロジー）にはいくつかの定義があります。ひとつは『生物と環境との関わりあいについての学問』というものがあり、地球環境保護問題一般を『エコロジー』と呼ぶのは、こちらの定義から派生してきたようです。また、『生物の生活に関する科学』という定義もあります。僕が特に興味を持っているのはこちらの方です。

『生物は互いに関わり合っているので、公害により生態系のバランスが崩れると…』なんていうのは最近よく耳にしますが、では、生物同士は一体どの様に関わりあっているのか？こちらは、意外と分かっていないことが多いと思います。単純な食う－食われるの食物連鎖だけで、生態系のバランスが保たれている訳ではないことを、近年の生態学の成果が語ってくれているようです。

例えば、真珠を取るために養殖されてるアコヤガイ。海水中に漂う藻類をこしとって食べるこの貝が捨てた（餌を取るときに一緒に吸い込み、餌だけ濾過した残りの）海水では、藻類がよりよく育つという。つまり、人間がアコヤガイの養殖を始めるずっと以前に、アコヤガイは『育てる漁業』を始めていたのです。

例えば、今年のセンター試験問題。水生昆虫マツモムシは、２種類の餌のうち、（餌の種類に関係なく）多いほうをより好んで食べたという。トキなどの希少種の保護に躍起になっている人間は、この小さな昆虫に畏敬の念をもって接するべきかも知れません。

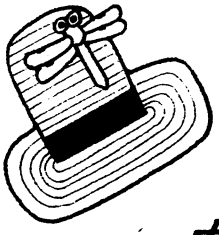
頭は悪くても、生物は本当にうまくやっているようです。人間関係と同じように、生物間の豊かな関係も共存の中で培われるのかも知れません。その生活の知恵には人間の学ぶべきものがたくさんあると思います。生物学は『生物を学ぶ』のではなく、『生物に学ぶ』ものだと思っています。

大つかさとし（小5）

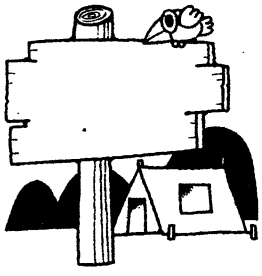
９月２４日にカニ山にキャンプに行った。ぼくたちは本当に少なかったけど、城山にきもだめしに行った。

山の中は本当にくらくて５メートル先は何も見えなかった。木が足に当たったり、ささの葉が当たったりして痛かった。最初にあまり広くない広場があった。それから、もう一つさっきのよりは大きい広場があって、その帰り「道にまよったんじゃない。」と言ったけどちゃんと帰れた。

とても楽しかった。



キャンプで楽しかったこと



ふじたよしあき（小5）

キャンプでぼくのもってきたライトで木をてらしていたらコウモリがでてきました。だれだかしらないけどみんなで「コウモリだぁ～」といいました。

ずぅ～っと木をてらしていたらコウモリが次々にでてきました。

とても楽しかったです。

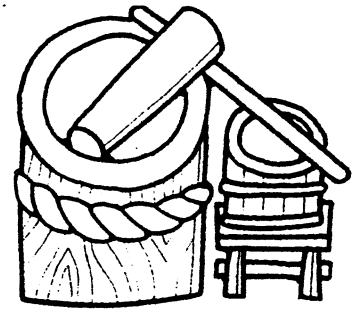
収　穫　祭

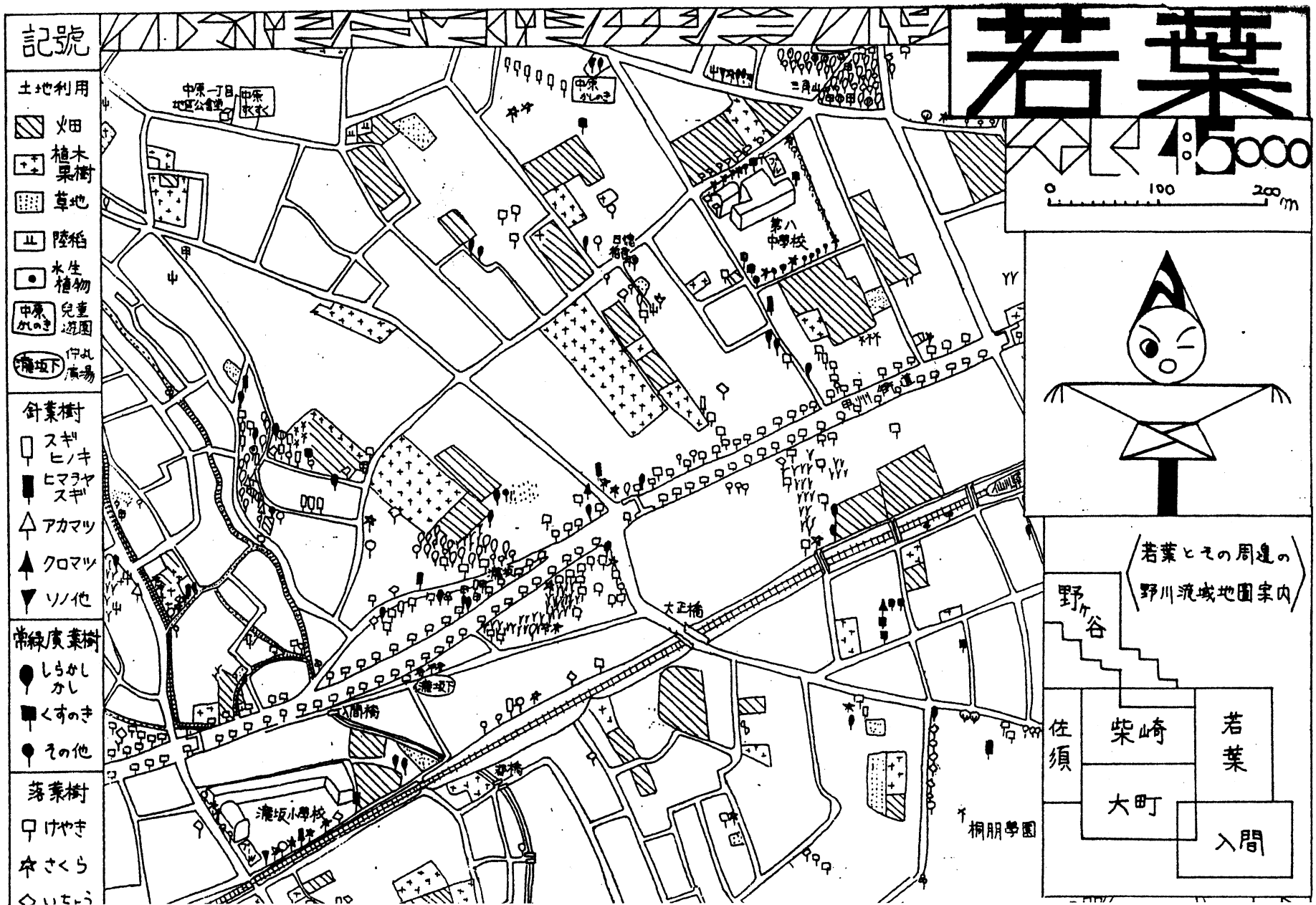
大学3年　村田幸夫

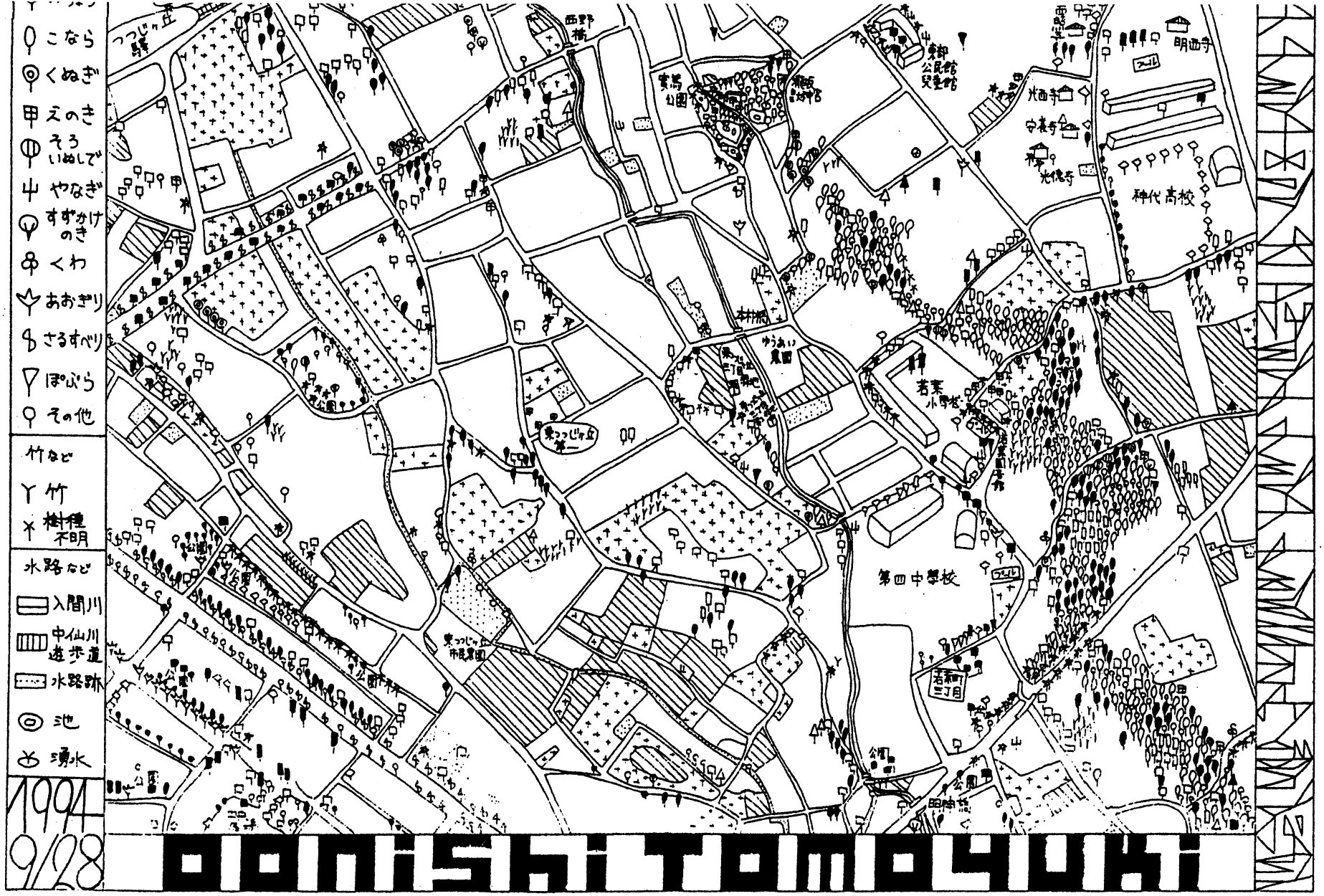
収穫祭でモチつきをやるというのは、自分にとって初めてのことでした。当日の朝、少し遅れていくと、もうすでにモチつきは始まっていました。とりあえずアンコ、黄な粉、納豆等のモチを食べさせてもらって、豚汁をすすると、早速声がかかり、初めてモチつきを体験することになりました。

まず、ふっくらと炊き上がったモチ米を臼の中に入れ、メシ粒がとばないように、少しネバリが出てくるまで数人が小さい杵でコネくり回して、それから大きな杵でモチつきがスタートします。一見簡単そうに見えて実際にやってみるとそうでもない、というのが第一印象でした。なにしろ杵がけっこう重く、そして大きいために狙いをなかなか一点に定めることができません。しかもそんな状態でモチをひっくり返す人や一緒にモチをつく人とのリズムを常に一定にしなければならないので、なかなか重労働でした。でも、モチつきというのは、やってみるとなんか楽しくなってきて、気が付くとずっとモチつきをやっていました。そのため次の日から三日間は、ずっと筋肉痛…。でも、そのモチつきのあとに頂いたビールがまた最高で、自分は酒やタバコはそんなにやらないのですが、こんな気分のいい酒は初めてでした。しかし、それよりもやはり、自分でついたと思って食べるモチはもう各段で、とてもいい思い出を残すことができました。

今回自分は二十歳になって初めてモチつきをやったのですが、この収穫祭に参加して思ったことは、モチつきというのは最近ではあまりないので、モチつきを見たことがないというのはもちろんですが、つきたての生モチを一度も食べたことがないという子供が多いのではないかということです。もし、市販の煮たり焼いたりしないと食べれないモチしか知らず、モチつきの存在そのものを知らない子供がいたとしたら、とても悲しいことだと思いました。そのためにも、この収穫祭を続けてほしいと思います。




若葉
1:5000
0 100 200m
記號
土地利用
畑
植木果樹
草地
陸稲
水生植物
中原かしのき 兒童遊園
滝坂下 仲丸廣場
針葉樹
スギ ヒノキ
ヒマラヤスギ
アカマツ
クロマツ
ソノ他
常緑廣葉樹
しらかし かし
くすのき
その他
落葉樹
けやき
さくら
いちょう
中原一丁目 地区公會堂
中原かしのき
三月山
第八中學校
滝坂
大正橋
入間橋
滝坂小學校
桐朋學園
〈若葉とその周邊の野川流域地圖案内〉
野ケ谷
佐須
柴崎
若葉
大町
入間


こなら
くぬぎ
えのき
そろ
いぬしで
やなぎ
すずかけ
のき
くわ
あおぎり
さるすべり
ぽぷら
その他
竹など
竹
樹種不明
水路など
入間川
中仙川
遊歩道
水路跡
池
湧水
1994
9/28
つつじが丘
西野橋
実篤公園
東部公民館
児童館
明西寺
光西寺
光徳寺
神代高校
本村橋
ゆうあい
農園
若葉
小学校
東つつじが丘
第一
第四中学校
東つつじが丘
市民農園
若葉町
三丁目
公園
田島橋
OONISHI TOMOYUKI

野川流域調査報告の概要⑥

大西友幸　OONiSHiTOMOYUKi　（大學生）

（１）１／５０００地圖「若葉」の解説

入間川はあまりおもしろくないのですが、實篤公園から續くハケの緑の規模の大きさには驚かされます。緑の環境保存地区や保存樹木の指定状況を見てください。

つつじケ丘驛の南側の畑から續く水路跡は、野川と入間川とに挟まれた高臺のわずかの低地を走っています。その水路跡に沿って廣い農地が存在しています。

（２）保存樹木番付（獨斷のベスト２０）

カッコ〔－〕内はその場所を含む圖地名

保存樹木は小金井市／府中市／三鷹市／調布市／狛江市／世田谷區が各々指定.

（國分寺市は對象外）

①調布入間町三丁目　№４３６・４６４・４３４　〔入間〕

：ハケ緑或いは屋敷森．39本．巨大なけやきがあります．

②調布佐須町四丁目　№２９４・５３８・４０９　〔佐須〕

：屋敷森．34本．佐須の用水沿いに廣がる水田や畑の農家の屋敷森です．

③調布深大寺元町三－二丁目　№３９５・３００・２７・３０５　〔深大寺－佐須〕

：ハケ緑．30本．緑の環境保全地区№３９５などに隣接しています．城山の南斜面．

④調布深大寺南町四丁目　№２５８・５４８　〔佐須〕

：屋敷森．53本．繪堂の農家で、調布市指定のヒイラギ、カゴノキがあります．

⑤調布東つつじケ丘　№３８３・４８１・６５　〔入間〕

：屋敷森或いはハケ緑．48本．野川と入間川との間の高臺が切れる所です．

⑥小金井前原町三丁目　№１１周邊　〔小金井－前原〕

：ハケ緑．質屋坂の南にあたります．

⑦調布入間町一丁目　№５３６　〔入間〕：ハケ緑．2000本．ＮＴＴ中央研修センタ．

⑧調布若葉町一丁目　№２９２・５４・２７３　〔若葉〕

：ハケ緑．７本．緑の環境保全地區№３３３などと連續．

⑨三鷹大澤六丁目　№２７７周邊　〔大澤〕

：屋敷森．しんぐるまの農家．濕生花園の對岸．

⑩調布國領八丁目　№３２８　〔大町〕　：59本．國領團地．

⑪調布柴崎一丁目　№１９９・４０１・３９９など　〔柴崎〕

：屋敷森．80－90本位．昔、用水路がこの付近を通っていて、農家が集まっています．

⑫調布深大寺東町八丁目　№７８・４６０　〔野ケ谷〕

：ハケ緑．84本．入間川水源付近のハケにあたります．

⑬調布若葉町一丁目　№１１８　〔若葉〕　：33本．桐朋學園

⑭狛江東野川四丁目　№２１５　〔入間〕　：竹林で４４９㎡．

⑮三鷹大澤二丁目　№２５３周邊・５８１周邊　〔大澤〕

：屋敷森．三鷹大澤臺小の南方．

⑯調布深大寺南町五丁目　№５５８　〔佐須〕　：屋敷森．36本．かに山の上．

⑰調布佐須町一丁目　№４７０　〔佐須〕

：屋敷森．33本．東京都指定の禪寺丸（かきの木）があります．

⑱調布深大寺北町五丁目　№１８１　〔野ケ谷〕

：屋敷森．21本．緑の環境保全地區№５４９と隣接しています．

⑲調布深大寺東町四丁目　№５５７　〔野ケ谷〕

：屋敷森．20本．この他にも周邊には屋敷森が多いです．

⑳調布深大寺元町三－五丁目　№３１８・１２９・１３０　〔深大寺〕

：ハケ緑或いは雜木林．25本．深大寺通りの南側の斜面で、深大寺の森に續がります．

以上は野川流域の案内です。仙川流域などや、多摩川に近い崖線にも保存樹木はあります。また前回同様、野川の下流は對象外です。

また、今回は寺社境内の保存樹木は對象外（寺社佛閣番付で扱います）です。

※小金井市／三鷹市／世田谷區の保存樹木は、一本ずつ番號を付けています。

調布市／狛江市の保存樹木は、地區（所有者）ごとに番号を付けています。

小金井市／三鷹市の保存樹木は、資料を入手していないので、番付入りが少なくなっていると思います。

水路の生き物たち

４月29日（土）に、毎年恒例の『水路の清掃＆生き物調査』がおこなわれました。当日の僕の不勉強による説明不足を補いつつ、観察された生き物たちを紹介しようと思います。

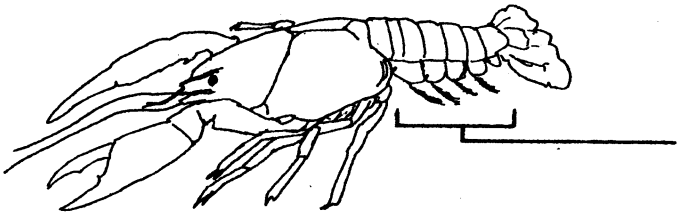
まず、子供達に大人気のアメリカザリガニ。水路の至る所で多くの個体が捕まえられました。腹部（尻尾）の部分の足が長いのがメスです（当日は不勉強で質問にお答えできませんでした…）。メスはこの足で卵、子供を抱きます。ザリガニの親戚のヌカエビも水路の深いところでたくさん採れました。

魚としてはたんぼになじみの深いドジョウが３匹ほど採れました。流れを好んで住む生きものとしては、カワニナ（ホタルの餌になる貝）やシマアメンボ（体が丸くハネがありません）のほか、オニヤンマのヤゴが見つかりました。去年生まれのチビから推定年齢３歳（あるいはそれ以上）と思われる大型のものまで、泥底の所で見つかりました。他にオオアオイトトンボとシオカラトンボのヤゴが見つかりましたが、全てカニ山の方から流れてきたものでしょう。シオヤトンボは成虫が見られました。

そのほかの水生昆虫としては、カゲロウ（モンカゲロウの仲間を含む３種）とカワゲラ（２種、カゲロウと共に正式な名前を調査中）の幼虫が見つかりました。エラの形やついている場所が水生昆虫の見分けのポイントになります。トビケラの成虫もみられました。これらの昆虫の形と住み場所の関係を調べてみるとおもしろいかも知れません。夏休みの課題にいかがでしょうか。

清流の象徴であるセキショウモが生える水路ですが、ミズムシ（水中のダンゴムシのようなもの）やアカムシ（ユスリカの幼虫）・モノアラガイなど、いわゆる汚い水の生き物も多く、メンバーの顔ぶれは多様でした。

水路とその周辺では、クレソン・キツネノボタン・ヒメオドリコソウ・セイヨウタンポポ・ウシハコベ・ハハコグサ・ハルノゲシ・カラスノエンドウなどが花盛り。食べられる野草も意外とたくさんあり、舌でも春を楽しめそうです。子供達に踏まれたカキドオシ（シソ科）のすがすがしい匂いがしました。耳を澄ませばカワラヒワののんびりした声が聞こえて来ました。水路の周りには五感をフルに使って楽しめる春の自然がありました。　（上村）



ふらりと参加した田んぼ作り

堀　一江

誘いを受けたのが２日前。軽い気持ちで参加しました。下２人の子供達には「相談もせず勝手にスケジュール決めて」と責められましたが…。用水路内の子供達は楽しそうだったし、真剣でした。そんな様子やまわりの景色をぼんやり眺めていると、時間や行動などの規制をあまり受けず、やりたい人がやりたいように事が進む中で肩の力がぬけ、何かゆったりしたものを感じました。

何かをしたら何かを得よう、得てほしいと思う気持ちがいつもどこかで働いていたように思います。が、今日は参加するだけで、どうでもいいやと思う私の気持ちも作用したのかも知れません。いつも企画する方なので参加して下さった人はどう思われたかな、楽しかったかな、と気になっていたのかも知れません。

午後は班遊びがあるからと４年生の三男は父親と帰りました。「田んぼの仕事つまんない。早く帰ろう。」と言っていた６年生の次男。ところが…、苗床のまわりに水が来ないのを見たとたん、やりたいと思う気持が湧いたようで、急に働き出したのです。「もういいよ。帰ろう。」と言う私の声も届かず、最後までやり通しました。「仕事イヤがっていたのにどうしたの」と聞くと「こういった機会はめったにないからやった」との答えでした。夫も子供の時にかかわったことのある田んぼを思い出し「会員になってもいいなー」と一言。

ふらりと参加したことで、いろんな事を考えた一日となりました。最後に…。私の生まれた所は福岡です。子供のころ、川にな（田舎での呼び名はほうぜ）がたくさんいてホタルが飛びかっていました。♪ほ・ほ・ほたるこい。あっちの水はにがいぞ。こっちの水はあまいぞ。ほ・ほ・ほたるこい♪と歌をうたいながら、ホタルかごに採集していたことを思い出します。ところが、２年前に帰省した田舎では、河川工事が進み、数ひきのホタルしかいませんでした。トキと同様、自然界ではホタルも他の生き物も見ることは出来ず、ＳＦ映画のような記録フイルムを見るようになるんでしょうね。カニ山（ほたる園）の囲いの網の中で見たホタル。群れ飛ぶホタルの中で育った私にはとてもショックでした。

ザリガニ達の叫び

堀　利文

ザリガニ、オニヤンマ、シオカラトンボ、糸トンボなどこれらの昆虫たちは人類の発生するはるか昔から住んでいる先住民（虫）です。これらの昆虫を調布で観察できるのはあと僅かの期間かもしれません。

さて、４月２９日”野川で遊ぶまちづくりの会”では佐須用水路の清掃およびたんぼの周辺に住む生き物の調査と観察会が開かれました。依田さんのお誘いで気軽に参加、弁当でも食べにとでも思い、出かけました。最近は昆虫の数が激減してきたことを実感した次第です。本来新参者の人間の方が遠慮をすべきであろうと思いますが、自然保護も考えないくらいわがままになっているようです。

ザリガニたちは口をそろえて、はさみを鳴らしてこんな風に話しているのかも…「ぼくたちの住むところが少なくなったなぁ。引っ越す場所も無いし、どこへ行っても汚いし…」

堀　風斗（小6）

面白いと思った。
いろいろな種類があると思った。
日本ザリガニだと思ったのにアメリカザリガニだったから、がっかりした。
一回目で銀ヤンマのやごを二匹捕まえたから、うれしかった。
竹の棒にするめを付けて釣りみたいにやっていたら、一匹だけ小さいのが釣れたのがうれしかった。

堀　悠吾（小4）

たのしいと思った。
来たかいがあったと思った。
いととんぼのやごとか、みずむし、というのがわかってよかった。
今度友達に教えようと思った。
今度また行きたいと思った。

「遊ぶ会」活動メモ（１９９４年１１月～１９９５年４月）

１１／３　もみすり

ワラが大量に混じっているので２回することできれいになった。昨年より俵（袋）の数が３つ位多そうだ。

１１／７　精米

モチ２１kg、ウルチ１１９kg、昨年より２０kg以上多い。

１１／２３　収穫祭

竹内喜好さん宅からお借りしたもちつき道具一式をセットし、モチ米２１kgを１０臼に分ける。一臼目をつき終え、お供えにして大家さん宅へ。二臼目からあんこ、おろし、納豆、きなこ、のりでまぶし試食開始。それまで冷たい水の中、林、畑で遊んでいた子供達も一斉に集まり総勢、親子６０人余り。店で売っているモチに比べてはるかに粘りがあり、甘みもある。子供達もモチつきに加わり最高のひとときだ。

※「消費者まつり」のイベント「かかしコンクール」の「かかし供養」を依頼されていたので同時に行う。たき火の炎と共に天に昇っていった。

１２／３　堆肥つみ

カニ山の落葉を集めリヤカーで運ぶ（３回、４０袋位）。これに鶏糞とヌカを混ぜ合せ、板囲いをした中へ入れ、水をかけて踏み込んだ。

１／２９　田んぼの反省会

農業高校の集会場を借りて食事をしながらの楽しいおしゃべりの会。深沢いぶきちゃんの「田んぼの絵日記」に感服。

会員募集中　～いっしょにあそぼ～

「野川で遊ぶまちづくりの会」では、仲間を募集しています。

年会費　　１口　２，０００円（１口以上何口でも）

申し込み、連絡先

〒１８２　調布市仙川町１－３１－６

ＴＥＬ　０３－３３２６－８２８５　　代表　尾辻義和

2／12　冬の雑木林で遊ぼう～枯れ枝造形と焼いも～

５０人の親子がカニ山の枯れ枝で造形に挑戦。馬、クワガタ、弓矢や大人には理解できないものもあり、子供の想像力のたくましさに感心させられました。つつじケ丘で造形教室を主宰する山本靖子先生が指導してくれました。

3／5　荒起し及び堆肥返し

冬草が伸び、耕うん機にからまり困難な作業。機械の調子も悪く難渋したが掘り返された土に春を感じる。

3／12　畦の草刈りと田の除草

カマと手で行ったが前々日の雨の後の作業で、草根の泥がとれにくく作業ははかどらなかった。

3／21　第2回荒起し

4／9　除草

草ボウボウで手で取り始めたが取りきれず、通りかかった三つ木さんの助言で耕うん機で行う。

4／16　苗床作り

地図を区切ってスコップで起す。予想外に草が生えていて大変。堆肥を２ケース入れる。他に堆肥の天地返し。

4／29　佐須の用水路の清掃と生物調査

会の発足直後から始まったこの催しもこれで４回目、ゴミの量が目立って減りました。生物の数は昨年の異常渇水の影響がかなり少ない。しかし、おにヤンマのヤゴをすくったときは一同歓声をあげた。今年は会発足以来の会員、上村君（当時は中三）が講師となった。

※当時からトンボ少年の愛称で呼ばれた上村君はマニアといっていい程、トンボや昆虫、魚や鳥に詳しく、しかも生態系や環境問題という視点で考えていて感心しました。会の活動の中から生物の研究者として生きて行きたいと決意し、このたび希望通りの大学の理学部生物学科へ入学したことは本当にうれしいです。(文責　依田)

［編集手帳］

４才の息子が「ファミコンよりも好き」というほど、ザリガニとりに熱中しています。日頃の感謝をこめて今年も用水路の清掃を行いました。

２月に発行する予定が、３ケ月も遅れましたことをお詫びいたします。その分今号は原稿が豊富で１６ページだてと充実しています。

田　ン　ボ　報　告（第5回）

大木　健次

収穫祭も終り、シーズンオフの我が田ンボ。（来年はセイロ、オカマを買おうじゃないか！との声も上がった収穫祭。そこである日布多天神のガラクタ市で出ているのをみて聞いたところ一式３万円しました。新品ですが）冬の間の田ンボのトレードマークは３ケ所の焚き火の跡と青々した冬草、そしていかにも踏み固められて硬そうにしまった土、でしょうか。少し田ンボを人が歩きすぎたかな？最近は大型機械を入れている田ンボの土が硬くなっているという話も聞いたことがあるぞ。よし来年のシーズンオフはレンゲでも植えて…。

さて、９４年１２月のたんぼ班の動きから報告します。

まず１２月初旬の堆肥積み。リヤカー２杯と車１台に積んだ落ち葉をベニヤで組んだ囲いに放り込み、間にヌカ６０kg、ケイフン６０kgと水。長グツでよーく踏むと山もりの葉っぱも程よくおさまる。ビニールシートに重しをのっけて来年春まで。毎月１度の天地返し。１００坪の田には多すぎる堆肥だけど、来年はもっと広く田ンボができるかもしれぬ、用意するに越したことはない。

さて、年が明けた。９４年のたんぼ班はそういえば室内でゆっくり話したことも、お互いがきちんと顔合わせしたこともなかった。ここまでやってこれたのも、皆さん”土”に関するキャリアと理解をもち、”土いじり”に愛着をもっておられたから。毎回、田ンボに集まって「あれやれ、これやれ」と言われ、終われば「おつかれ様」で解散しても文句らしい文句がでなかった（のか、聞こえてこなかった）のは、皆さんの目的が何よりも田ンボ及び田ンボでの体験にあったからだ…。と今さらながら感謝し、安心しても１度くらいゆっくり話し合わせくらいしよう。ということでシーズンオフながら反省会兼親睦会を企画した。場所は農業高校レストハウス。参加は少なかったし、話しの進行等もなしの集まりとはなったが、それなりの意味はあった。小学生の班員が自分の作文をもってきたり（報告書に掲載）、うちのようなグループには中高生の後継者を育てる視点が必要という話しを聞くことができたり。いつもながら、ぜいたくな農業高校レストハウスの１日ではあった。

そして９５年度第１回の荒おこし。冬草ボーボーの田ンボに久しぶりの耕うん機が入ったのは３月５日の事。前日の雨のせいで土は十分に湿っており、予定の除草は早々にあきらめ。改めて季節はもう春になっていることを実感。冬草とりを冬の間にやっておくべきだったと思いつつ、エンストしたあげくキャブレターの詰まった耕うん機を前にどうすることもできず、近所のエンジンに詳しい人の助けを求めに走った。幸いエンジンは回復した。アクセルとチョークの微妙な具合は以前と違ったかもしれない。今後はガソリンを用意して耕うんに臨むことにしよう。翌週３月１２日、またしても春の雨のしみわたった田ンボを前に、草とりは一向に進まぬ。とりあえずあぜの草を刈る。４月２９日種蒔きまでにもう１度必要なら更に１度、耕うん機を入れ耕す予定。皆さん既に田ンボは春です。徐々に春です。新しいメンバー、中高生達もヨロシク。田ンボで待っています。